

表「持続可能な航空ハブ・ブループリント」で示された目標とイニシアチブの概要

目標: チャンギ空港、セレタ空港のオペレーションに伴う温室効果ガスの排出量を2030年までに2019年比で20%削減し、2050年までに国内外の航空関連の排出量を実質ゼロ(ネットゼロ)へ		
空港	航空機	航空管制
省エネ・再生エネルギーの利用	持続可能な燃料(SAF)の供給・調達支援	オペレーションの改善、燃料効率の向上
1. チャンギ・セレタ空港に太陽光パネルを設置	1. シンガポールから出発する全航空便に、持続可能な航空燃料(SAF)の利用を義務化。2026年から燃料の1%をSAFとし、2030年までに同比率を3~5%に引き上げ。一方、乗客にはSAF税を課税。 2. シンガポール国内及び近隣諸国で、業界との連携でのSAF製造能力の拡大	1. 航空管制のオペレーションの向上。予測分析ツールを用いて、意思決定をサポート
2. 空港の地上車両の燃料を、2040年までにクリーンな燃料へ転換		2. 近隣諸国の航空サービス・プロバイダー(ANSP)と連携して、航空ルートの改善
3. 空港施設の省エネを推進。新しい第5ターミナルは、最高の省エネビル基準(グリーンマーク・プラチナム・超低エネルギービル)取得へ		3. 離陸から着陸までの運航の効率改善。意思決定ツールを活用した、航空機間の離陸間隔短縮、滑走路の利用効率改善。
4. 低炭素電力の輸入などを通じたグリッド排出係数の削減		3. 徴収したSAF税を用いて、SAF調達を集約
5. チャンギ空港内にゴミ処理発電設置の可能性を調査		4. 燃料効率の良い最新型航空機の投入とオペレーションの効率化
上記イニシアチブを支える支援体制		
政策・規制の整備 グリーントランスフォーメーション(GX)を支える産業振興 空港インフラ計画立案と実行 環境関連の専門人材の育成 国際協力と提携		

(注) 持続可能な航空ハブ・ブループリントは、CAASのサイトからダウンロード可能

<https://www.caas.gov.sg/docs/default-source/docs---so/singapore-sustainable-air-hub-blueprint.pdf>

(出所) 民間航空庁(CAAS)